

神奈川県横浜市の鶴見つるみにある總持寺そうじじは、福井県にある永平寺えいへいじと並び曹洞宗そうとうしゅうの大本山だいほんざんです。

鎌倉時代の1321年、瑩山けいざんぜんじ禪師のが能登のと（現在の石川県）にあったお寺を寄進され「諸嶽山總持寺しよがくさんそうじじ」として開創かいそうされました。

瑩山けいざんぜんじ禪師は、總持寺を曹洞宗の一大修行道場にすることを決意され、「日本曹洞宗しゅっせのどうじょう出世之道場」として、時の朝廷に認められるまでになりました。

つまり、日本において曹洞宗の名が始めておおやけ公のものとなったのです。

總持寺が、永平寺と並び曹洞宗の大本山たる謂われです。その後、曹洞宗は瑩山けいざんぜんじ禪師の多くの弟子によって全国に広められました。

明治31年、總持寺を大火災がおそい、建物のほとんどが焼失してしまいました。この火災をきっかけに、大本山である總持寺を多くの人々が集まる関東地区に移転しては、との声が高まり、明治44年に、現在の横浜市鶴見の地に移されたのでした。その後、能登の總持寺も復興がなされ、現在は總持寺そいん祖院として修行道場となり、人々の信仰をあつめております。

大本山總持寺だいほんざんそうじじは修行道場として、現在も多くの僧侶が日々修行に励んでおります。

また、多くの方が禅の教えを学び実践できる開かれた道場でもあります。坐禅会や仏教の勉強会はもとより、さまざまな研修会が一般の方々を対象として開かれています。

境内けいたいの広大な敷地も常に開放され、都会けんそうの喧噪を離れて信仰の中に安らかな時を過ごすことができます。敷地内には高校や大学、幼稚園もあり、学生は仏教の教えや坐禅の修行を基本とし、幅広く学び社会に旅立って行きます。

この様に、總持寺は常に社会に開かれた曹洞宗の大本山として、多くの方々の信仰の対象となり、心の拠り所となっています。

瑩山けいざん禪師は、「お釈迦さまの教えは、この世界のあらゆる所に満ち満ちている。男性であるとか女性であるとか、僧侶であるとか一般の方であるとか関係なく、お釈迦さまの教えに触れ修行することが大切である」とお示しです。

まさに總持寺は、開かれた大本山として横浜の鶴見にあり、瑩山けいざん禪師のお言葉の

通り、僧侶だけでなく多くの方々が禅の教えに触れることのできる場所なのです。

今年は總持寺の二代目、峨山韶碩がさんしょうせき禪師の650回大遠忌たいおんきが行われます。皆さまも一度總持寺を訪れてみてはいかがでしょうか？

— 終 —